

2016(平成28)年度 西中学校 学校評価

共通取組 重点取組	平成28年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫カリキュラムの運営・改善を進めるとともに、合同授業研究会等を活用し、学力の向上を図る。 ・思考力・判断力・表現力が発揮される授業展開を工夫する。 ・学習活動に問題解決学習や体験学習など、様々な形でアクティブラーニングを取り入れ、生徒が主体的に学べる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も年間計画に沿って、各教科で主体的に学習に取り組む態度の育成を図る授業の研究を進めた。小中合同授業研究会では、テーマに沿って社会科の授業を公開し、小中で生徒の実態について共通認識を図ることができた。 ・各教科が授業の工夫、および改善に日々励んでいる。 ・生徒が何を学ぶか、どのように学ぶか(主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング))、何ができるようになるか、という次期学習指導要領で求められる3つの柱を意識して今後も取り組んでいきたい。 	A B C D
2 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する」道徳授業を工夫し、実践する。 ・生徒活動による人権意識啓発、いじめ防止の取組を行う。 ・「よこはまの時間」等の体験活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、道徳の授業への取組に力を入れてきた。学年、学校としての計画を再構築することでより生徒によりそった授業の展開が実施できた。 ・国際理解、人権の視点から「国際平和スピーチ」「人権作文コンテスト」を行うことにより、優れた作品を発表する機会を設定し、発表することがよい刺激となり学校全体の意識が高まった。また、国際理解を深めるために講師を招き、講演会を開催したことも、またよい機会となった。 ・各学年の計画に従った体験活動が着実に進められた。 	A B C D
3 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康に必要なよりよい生活習慣(運動・食・睡眠)や健康に関する正しい知識を、教科指導、保健指導、食育等を通してしっかり教える。 ・健康・安全について科学的に理解し、適切に実践していくための思考力・判断力を育てる。 ・自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業では、体力テストの経年変化を分析し、基礎体力向上を目指すため、授業の中でランニング、筋力トレーニング、ストレッチ体操を実施した。 ・心肺蘇生法の講習会を通して、健康・安全に関する理解を深めた。 ・体育祭を通して、積極的に運動を親しむ習慣や活発に行う姿勢を身につけられた。 ・保健美化委員会では携帯・スマホに関するアンケートを全校に実施し結果から実態を分析し心身の健康保持に必要な情報や正しい知識を学校保健委員会で発信することができた。 	A B C D
4 キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の協力のもと、1年生で職業講話、2年生で職場体験を計画し、より生徒の興味・関心に即した内容の体験や、事前・事後学習を進める。 ・3年間の見通しを持った進路学習計画を整備し、3年次に生徒がより主体的に進路選択ができるよう、情報発信や相談活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期は、5月と10月に進路説明会を2年および3年の保護者対象に実施し、生徒および保護者がより主体的に進路選択ができるように情報発信を行った。 ・1年生は、今年度「海外で働くことについて」という内容を講師を招き職業講話を実施し、働くことへの関心を高め、幅広い職業観を養うことができた。また2年生は、3日間の職場体験を通して様々な経験をし、仕事の大変さや嬉しさ、また社会の一員としての自覚を高めることができた。 	A B C D
5 児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒指導のために、小中合同会議や児童支援専任との連携を通して、児童・生徒の情報交換を行う。 ・全職員で、共通認識をもって生徒指導を行うために共通理解をもつ機会を設ける。 ・「いじめ防止」に向けた生徒活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童支援専任と、小中合同の会議・研修・行事や区の専任会などで、児童支援・生徒指導のために情報交換を行った。 ・年度初めの研修会で生徒指導の共通認識をもち、月ごとの指導部で共通認識の再確認を行った。 ・「いじめ防止」を考えたポスター呼びかけや朝会劇で、生活委員会が主体的にいじめ防止を呼びかける活動を指導した。 	A B C D
6 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の引き渡し訓練を実施し、緊急時における生徒の安全確保と保護者や地域との連携をスムーズに行うための体制作りを行う。 ・消防署による防災教育を実施し、災害発生時に生徒・職員が社会の一員として自分自身ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、想定される災害に対応する防災安全活動が実施できた。小中連携の引き渡し訓練や防災訓練などの各訓練に対しては、災害想定をし、もっと実際の災害時を考え訓練を進めるべきだった。また、家庭、行政、そして地域との連携をより密に進めていかなければならないと感じた。 ・今後は、生徒の登下校時の災害に対する対応の仕方も考えていかなければならない。 	A B C D
7 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域連携事業総会、学校運営協議会で学校経営方針を示すとともに、学校評価アンケート等で挙げられた地域からの意見を、学校運営に活かしていく。 ・地区別生徒集会を災害時の集団下校のためだけでなく、各地域から行事等の情報発信をしてもらう場として活用し、生徒が自主的に地域行事へ参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校家庭地域連携事業総会で、学校経営方針を示し、地域からの参加者より意見を聞くことができた。また、学校評価アンケートにも意見が出されたので、学校運営に生かしていく。 ・地区別生徒集会で校外委員が調べてきた地域の情報を生徒に示し、各地域の行事参加を促した。夏のお祭りや健民祭などのボランティア参加などで、少なからず結果が出てきている。 	A B C D
8 人材育成・組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い教員が主体的に研修を年2回以上企画し、先輩教員の支援を受けながら教師力の向上を図る。 ・区若手教師合同研修との連携を図り、ネットワークや視野を広げる。 ・学校HP、学校だより、説明会等、情報発信の場に応じた発信方法の更なる工夫を図り、家庭や社会とのつながりを大切に学校運営を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も2回の校内研修を行った。2回目は若手メンバーが自主的に「主体的な学び・対話的で深い学び(AL)の視点、資質・能力の育成」をテーマにした研究授業を行う企画をした。新しい学びに挑戦し、メンバー全員が研究授業を行い、振り返りをしてまとめることができた。 ・9月の区若手研「主体的な学び・対話的で深い学び(AL)」を校内の自主研修につなげた。若手研の講師を研究授業の助言者として招聘するなど、ネットワークを広げ活用することができた。 ・学校便り「にしとべの丘」を70周年記念事業1年前にあたる11月号から学校運営協議会の方にも配布することにした。学校HPによる情報発信が後退してしまった。 	A B C D